

【経営の概要】

- 主な事業は肉用牛の肥育。4農場で約500頭を飼養し、年間出荷頭数は約300頭。WCS用稲の刈取受託：約10ha
- 従業員2名。オペレータは、4名体制（うち2名はパート）。令和7年度から堆肥の提供+稲わらの収集を開始。

①飼料生産の概要

- 刈取受託 約10ha
WCS用稲 約10ha
- 飼料提供先 9戸
下伊那地域、飯田市の繁殖農家
- 作業委託元 5戸
地元の耕種農家
- 稲わらの収集
(令和7年度からの新たな取組)
 - ・堆肥の提供⇔稲わらの収集
 - ・主食用米農家からの買取

②飼料生産の現状と今後の展望等

- 飼料生産に取り組み始めた経緯
令和元年、肥育農家の後継者とJAの出資により当法人を設立。他の肥育農家の農地も引き受けて、飼料の刈取作業の受託を開始。
- 飼料生産の現状
法人設立当初より、地域でWCS用稲の作付けが進む中、WCS用稲の刈取作業の委託を希望する声も多く、令和元年の法人設立と同時にWCS用稲の刈取受託も始めた。
令和7年度からは、従業員に大型特殊免許やけん引免許を取得してもらい、稲わらの収集と、自社の堆肥の活用を始めた。自社収集（堆肥の提供⇔稲わらの収集）を始めた稲わらは約30口ール、地域の耕種農家から買い取った稲わらは約600口ールになる。
- 今後の展望
自社では、年間約1,000口ールの稲わらが必要であり、そのうち半分以上は中国産稲わらを購入している。地域全体では、稲わら必要量の約9割が中国産。将来的には、自社で必要な稲わらにとどまらず、地域で必要な稲わらを自社が収集することで、地域で稲わらの必要量を全量賄えるようにしたい、と考えている。

③人材確保や機械の活用に関する取組や課題

自社堆肥の活用や、収集作業の実施によるWCS用稲と稲わらの安定確保や作業拡大に取り組むために、従業員の免許取得と大型作業機並びに運搬車両が必要だと感じていた。当該事業を活用し大型特殊免許とけん引免許を取得し、WCS用稲の刈取作業や稲わらの収集作業や運搬、堆肥の運搬と散布などに活用している。

現在は運搬車両のレンタルで対応しており、車両を自社保有できればかなりの効率アップになるが、機械の導入と維持に係る負担を課題に思っている。また、若い人材を確保したいが、人件費の負担が大きな課題である。

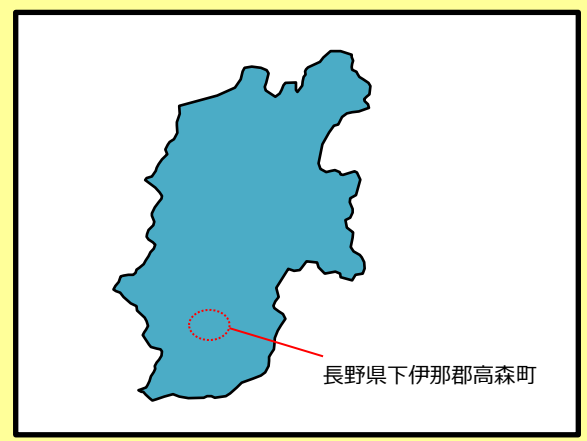
④取組内容



左が事務所、右が牛舎



稲WCSロールは、敷地内に補完し順次納品
右奥が堆肥舎、運ぶ、撒くための機械が並ぶ



長野県下伊那郡高森町



稲わらを収集しロールに



回収した稲わらロールは、全て自社で消費



右奥が収集した稲わらロール、手前は輸入稲わら